

地域共創・未来共創の大学へ



新しい出会い

新しい挑戦

ここ沖大でスタート！

新入生の皆様、入学おめでとうございます。

沖縄大学は、地域共創・未来共創の大学を目指すことを沖縄大学憲章として宣言しています。「知」と「人」の交流拠点となり、地域社会と共に成長し、未来を切り拓いていくことを使命としています。

沖縄大学は、学問と人々が交差する場所です。ここで、多様な人々と出会い、共に学び、共に成長しましょう。学生同士や教職員との交流を大切に、キャンパスライフを楽しんでください。異なるバックグラウンドを持つ仲間と協力し、共に学び合しましょう。

沖縄大学は高度な教育と研究を提供しています。授業や研究活動に積極的に参加し、自分の興味を追求してください。地域社会と連携し、共に未来を築るために、地域の課題に取り組むプロジェクトやフィールドワークなど、さまざまな活動に主体的に参加してください。あなたのアイデアや情熱を活かして、地域との共創に挑戦しましょう。

沖縄大学は自立した思考力を持ち、社会で活躍できる人材を育てることを目指しています。皆さんがそれぞれの決断によって本学を選んでくださったことがその第一歩です。

新しい出会い、新しい挑戦、ここ沖大でスタートする皆さんを心から応援します。

(学長 山代 寛)

4月
2024年

163号

発行

沖縄大学経営企画室

〒902-8521 沖縄県那覇市字国場555

☎ 098(832)2910

<http://www.okinawa-u.ac.jp>

『学んだことを活かして挑戦×挑戦!』

昨年、国内留学に挑戦!

こども文化学科3年次 座間味笑里さん(2023年4月~9月神戸親和大学へ留学)

入学前から、県外の大学に留学することを目標にしていました。実際に兵庫県の大学に留学した際に、勉強に励むだけでなく、初めての一人暮らしや県外で生活することを体験してみて、「卒業後の自分」を想像することができました。また、国内留学に行った勢いで、夏休みには北海道で1週間集中講義(旭川大学提供科目)を受講するなど、自分の中では初めての挑戦もしました。



大学に入るまでは、色々なことに挑戦することはあまりなかったけれど、大学生の今しかできないことがあると思い、今回留学することを決めました。留学の醍醐味は、勉強も遊びも楽しみ、そこでしか体験できないことがたくさん経験できることです。例えば、街を散策したり、動物園に行ったり、

電車に乗ったり、美味しいものを食べたり。

私自身、自分の直感や気持ちを大事にしています。自分の気持ちを大切にしながら、挑戦できるのは今だけだからこそ、これからも挑戦していきたいです!



集中講義で訪れた旭川にて撮影

CHECK!

Q国内派遣留学ってなに?

沖縄大学に在学しながら、県外の大学に通える制度です。追加の学費は発生しません。沖縄大学に通う場合と同じ学費です。

Q単位(成績)はどうなる?

留学先で取得した単位を沖縄大学の卒業単位に含めることができます。

[国内提携大学]

- 北海道
旭川市立大学
札幌大学
- 近畿地方
京都精華大学
神戸親和大学
- 関東地方
茨城キリスト教大学
東京国際大学
津田塾大学
法政大学
和光大学
関東学院大学



全日本学生陸上で好成績を!

経法商学科4年次 平賀麗奈さん

新しい年度が始まるにあたり、陸上部での私の抱負は「初志貫徹」です。昨年度は全国大会に出場したものの不甲斐ない結果で終わってしまったため、今年度は全国大会上位入賞を実現することです。そのために、自己ベストを更新し続けることはもちろんですが、昨年度の経験を活かして成功や失敗を振り返り、それらから学び続けていきたいと思っています。そして、自己成長をしながら掲げた目標をぶれずに貫き通して、今シーズンはよりレベルの高い舞台でパフォーマンスを目指します。



2024
新年度

あなたのチャレンジを
教えてください〜!!

『末吉ゼミ!英語を活かした那覇の魅力発信事業』

沖縄観光PRに取り組むゼミ活動にも注目!

毎年、インバウンド向け観光PRコンテンツ制作に取り組んでいる国際コミュニケーション学科末吉綾乃先生のゼミでは、昨年度HPや動画、SNS(インスタ)、マップを完成させました。本学WEBサイトからも閲覧可能です。那覇市観光協会WEBサイトにも掲載されています。今年度は活動を継続してさらにパワーアップさせていく予定です。



観光PRコンテンツ制作HPIはこちらから



Baseball5の日本代表に選出!

Baseball5とは...

2018年に世界野球ソフトボール連盟によって考案された野球・ソフトボールに次ぐ第3の競技として認定された新競技。ゴムボールさえあればどこでもプレーできるのが特徴、1チーム5人(男女、3・2または2・3)で戦う競技です。



福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻2年次 喜屋原 咲さん

私は、3月2日に開催されたBaseball5日本代表候補選考会に挑戦し、日本代表に選出されました。まずは、4月に韓国で行われる「第2回WBSC-ASIA Baseball5 アジアカップ」で優勝をしたいです。沖縄だけでなく日本を背負っているという自覚を持ち、チーム一丸となって戦い抜きたいと思っています。Baseball5を始めて半年ほどですが、実力の高いメンバーと一緒にプレーをさせていただく機会を得ることができ、技術面だけでなくメンタル面でも沢山学ぶことができています。自チームに戻ってみんなに情報共有をしていけたらいいなと思っています。またこれを機に、沖縄全体にBaseball5が普及していくといいです。

入試広報室 書記
翁長 春香

今回、職員として採用していただきました翁長春香です。

私は、昨年度まで本学の管理栄養学科学生として在籍しており勉強、部活に打ち込んできました。お世話になった大学で働けることをとても嬉しく思います。4年間で学んだこと経験してきたことを活かして沖縄大学の更なる発展に努めたいと思っています。また、まだ数少ない管理栄養学科卒業生として学生の力になりたいと考えております。そのためにも、社会人として早く一人前になれるよう日々努力いたしますのでどうぞよろしくお願いたします。

学生支援課 書記
大須賀 拓斗

今年度から職員として着任いたしました大須賀拓斗（おおすがたくと）と申します。

埼玉県出身、埼玉育ちで、前職は東京にある大学の職員として勤めておりました。今回ご縁があり沖縄大学で働くことになり、新しい環境で大学と学生に携われることにワクワクしています。

大学を取り巻く環境や文化・価値観などの多くのことが、私の通っていた大学や前職で勤めていた大学とは異なると思います。そのような違いを尊重し、かつ客観的な視点から物事を捉え、大学・学生・地域に貢献していきたいです。どうぞよろしくお願いたします。

経法商学科
眞田 章午 講師

沖縄大学の皆さま、初めまして。今年度から経法商学部に着任しました眞田章午（さなだしょうご）と申します。沖縄という新天地で、また、本学で教育・研究ができることを大変嬉しく思います。沖縄の魅力（とりわけ食文化、甘味処）を色々と教えてください。

担当科目は、憲法、行政法、地方自治法です。専門は行政法で、イギリス公法原理の歴史的研究、行政法学からみたデジタル化社会の諸問題に関する研究等を行っています。行政法を始めとする公法系科目は、複雑で分かりにくいイメージをもたれるかもしれませんが、講義では、私たちの日常生活と密接に関わっていることを伝えていきたいです。（例えば、皆さまが朝起きて顔を洗うところで行政法に接しています。）よろしくお願いたします。

2024年度
赴任教職員を
紹介します管理栄養学科
横山 弥枝 准教授

今年度から管理栄養学科に着任しました横山弥枝です。研究はコホートデータを用いて、健康と食習慣に関するリスク解析をしています。昔ながらの沖縄県の食文化・食習慣は、日本人の健康寿命の延伸や健康格差の縮小につながるヒントが隠されていると思います。一緒に解明してみませんか？

沖縄県の方々の栄養・食生活を担う、管理栄養士養成の一助となるよう尽力いたします。

教務課 書記
當山 香音

初めまして。今年度より事務職員として採用頂きました、當山香音と申します。

前職ではOA機器メーカーで営業職として働いておりました。大学進学をきっかけに県外で生活をしていましたが久しぶりに沖縄に戻り本学で働けることを楽しみにしております。新しい環境で職種も前職と異なるため至らない点も多々あるかと思いますが、これまでの社会人経験で培ってきた経験を活かし学生の皆さんが大学生活を有意義に過ごせるよう精一杯努めて参ります。ご指導、ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いたします。

マルチメディア
教育研究センター書記
新里 拓也

今年度より専任職員として採用されました、新里拓也と申します。

私は2019年9月にマルチメディア教育研究センターで非常勤職員として入職しました。

入職して間もなく新型コロナウイルスの影響で対面講義が困難な状況になり、遠隔講義に切り替わった際には、学生、教員の遠隔講義のサポートを行い、入学式・卒業式などのイベントのライブ配信という新しい事に挑戦し、様々な知識と技術を身につけることができました。

今後も知識や技術力の向上に努めながら、学生、教職員にとって最適なICT環境の整備と活用のサポートを担っていきたくと考えておりますのでよろしくお願いたします。

情報システム管理室
書記
佐久田 佳恋

はじめまして。今年度より専任職員として採用されました佐久田佳恋と申します。

私は大学卒業後、宮古島のリゾートホテルに勤務していましたが、その後、沖縄大学の非常勤職員として勤めさせていただきました。沖縄大学で勤務する中で、様々な面から学生の皆さんや先生方を支える仕事があること、大変やりがいのある仕事ということを実感しました。大学は未来を担う学生が最後に学ぶことができる機関だと思っています。そんな学生の皆さんが有意義な学生生活を送ることができるよう精一杯サポートし、教職員や地域の方々との関りも大切に尽力いたします。これからどうぞよろしくお願いたします。

経理課 書記
金城 清花

今年度より専任職員として採用されました、金城清花と申します。沖縄大学国際コミュニケーション学科を卒業し、その後は沖縄大学の非常勤職員として2年間勤めておりました。学生の頃からの目標でもあった、専任職員になることを実現でき大変嬉しく思っております。

私の願いは、一人でも多くの学生や教職員が「沖縄大学へ来てよかった」と感じてほしいことです。その為にも学生のサポートはもちろん、教職員の連携を大切にしていきたいと思っています。まだまだ未熟者ですが、母校のために精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願申し上げます。

大学4年間の集大成となる
ラストの一年！

経法商学科4年 我如古芹璃さん



わたしは沖縄県の貧困問題を解決したいという夢に向かって、大学時代、主に子どもの居場所でのボランティア活動に力を注ぎました。無料塾で宿題の見守りや、子ども食堂での活動を行いました。今年3月には報道カメラマンの石川文洋さんと巡るベトナム平和研修にも参加しました。そこでは、現地の学生との交流を楽しみながらも、戦争博物館や枯葉剤の被害をうけた方々がいる平和村の見学・訪問等、ベトナム戦争で起こった出来事、そして現在でも残る戦争の影響を見て、戦争が終わったからといって平和だという安心には繋がらないと思いました。戦地で写真を撮っていた文洋さんの写真解説では、写真に写る1人1人にストーリーがあり、戦前には私達と変わらず家族と友人と笑い合っていた日があったのに、戦争でそれが全て壊されたことに胸が痛くなりました。今回の平和研修



でベトナムの学生との異文化交流や互いの文化を理解しようとする姿勢が大切で、それが出来るのが平和であり、これからも平和でいられるのではないかと考えました。今後も国境を越えた繋がりを持ち、より一層互いの文化を理解するために言語学習に力を入りたいです。

大学2年の後期から教員ではない、別の道を検討しはじめ、3年次の夏休みから就職活動を意識しました。2月に大学の就職支援課主催の就職合宿に参加したら、他学科の学生の取り組み状況を知ることができ、たくさんの収穫がありました。そこから危機感を持って就活への準備ができました。情報解禁となる3月1日に企業のサイトを見て企業分析を行い、気になった企業にエントリーを出していきましました。人と関わる仕事をメインに探していて、一番初めにエントリーした企業に内定をいただけたので、とても嬉しかったです。特に課外活動で特別なことはしていませんでしたが、「教育」を学んできたことを話して、模擬授業やグループ活動での役割などについてお伝えしました。



就職活動を楽しむのも大事

こども文化学科
[知念高校出身]

内定先:株式会社USEN-NEXT HOLDINGS
森田 新菜さん

福祉文化学科[首里東高校出身]
内定先:平和病院

廣瀬 文音さん

自分探しの就活!

就職活動は、3年次の1月から本格的にスタートさせました。沖縄県内の福祉職は就職活動が遅い状況はありますが県外に合わせて早めに動く選択肢が広がります。学校での説明会はもちろん、合同企業説明会に参加し、リクナビ等のアプリを使うなど、あらゆる手段で情報を入手しました(キミスカというアプリはお勧めです)。自ら県内の病院10社ほど企業訪問したりもしました。そして気になった企業にはエントリーをしていきました。私は何が好きで、何が嫌いなのか、自分探しに、一生懸命取り組みました。自己理解をして自分の強みを、面接できちんと伝えて、業務に活かせることをアピールしました。医療の分野や患者さんの生き方、人生にも興味があり、患者さんを支える仕事がしたいという想いが就職活動にも熱くなれたと思います。



私は、3年生の春休み頃から就職説明会等に参加しました。身近に入院している人がいたことから体調面で弱っている方たちの支えになれたらと病院での就職を志望しました。管理栄養学科では4年生で、実習に行きますが、就職したい病院に実習に行ったほうが就職活動には有利になると思います。そのためには実習先を決めるときに、その病院に行きたい理由を熱意をもって書く必要がありますし、それまでの大学での学びが大事なので、しっかり勉強することが大切です。

浦添総合病院の採用試験は、人間性を重視した試験でした。面接では、人と話すことが得意だとアピールし、人との共通点を見つけるのがうまいことや話がつきないように話題を提供できることなどを伝えました。

管理栄養学科の就職活動は 実習時から始まっています!

管理栄養学科[浦添工業高校出身]
浦添総合病院(栄養管理部)

大庭 利々香さん



経法商学科
[深川高校(東京都)出身]

内定先:琉球銀行
三澤 実季さん

早めに就職活動をスタート!

私は就職活動に不安を感じていたので、とにかく早く活動を始めようと思い、普通の人よりは1年くらい早くスタートさせました。2年次の3月には合同説明会へ参加し、いろいろな業種を見ました。人を応援することが好きなことや人生の分岐点を後押しできる仕事を探して、地方銀行とプライダル企業に絞り企業分析をしました。大学では経済経営を学んできたので、金融系を学び続けることは自己成長にもつながるのではないかと考え、琉球銀行に決めました。お客様のために日々勉強を重ねること、その知識は自分にも活かせると感じましたし、サポートできる幅が広いのは銀行だと感じ志望しました。はじめる時期は自分次第です。就活を面倒なものにとらえるのではなくて、自分探しの良い機会だと思って楽しんで、自分がもっと輝ける場所を見つけてほしいと思います。



この春卒業した
先輩たちに

就活について 聞いてみました!

管理栄養学科
[宜野湾高校出身]
浦添総合病院(栄養管理部)
山城 未久さん

先生から就職情報を得るためにもゼミ選びも大切

4年生のときに浦添総合病院で実習を行い、病院の管理栄養士さんの仕事に魅力を感じ病院で働きたいと思うようになりました。実習中に積極的に業務について先輩たちに聞くことが就職先を決めることにおいても重要だと思います。就職活動は独学で行ったので、手探りの状況でしたから、後輩たちには就職支援課等を利用してほしいです。また、管理栄養学科はゼミの先生を選ぶときに重要で、病院等の状況を知っている先生のゼミだと、情報を得やすいです。

誰かのために役立つ仕事に就きたいと思っていたことや幅広い福祉事業に携われたらと考えていたので、大学3年次の2月からは県や市の行政職の情報収集を行いました。最終的に豊見城市に絞ったのは、子育て世代への支援に力を入れていて、私がやりたい分野にマッチしていたからです。就職活動(応募や試験)がちょうどスクールソーシャルワーカーの実習時期と重なったので、不安を感じながらの活動でしたが、国家試験対策が筆記試験で活かされたので、大学での学びが内定に結びつきました。学童でのアルバイト経験から、母子家庭や生活困窮者のお子さんとの関わりが行政の福祉分野に携わりたいと志すきっかけになったことなど、面接ではお話ししました。

求人情報等は自分が積極的に情報を探すことで視野が広がります。早めに取り組みれば、公務員試験への取り組みにも余裕が持てます。

積極的に情報を探して!

福祉文化学科[首里東高校出身]
内定先:豊見城市役所 行政職Ⅳ(社会福祉士)
高良 莉穂さん



Q. 就活力を上げたい!

A. 3日間の集中プログラムがおすすめ。

2023年度は宿泊を伴わない集合研修を実施。3日間のプログラムで本番に向けて力を身につけます。参加することで内定獲得率もぐんとアップします!

1日目 実践講座

就活マナー講座、グループワーク講座、履歴書作成講座

2日目 初日に作成した履歴書をもとに模擬面接

3日目 社会人との交流会

企業の方から就活のアドバイスを受けられるプログラム

Q. 就活中の不安を解消したい!

A. 就職面接がおすすめです。

就職に関する相談や、選考対策(履歴書・エントリーシートの添削、模擬面接など)を専門のスタッフが1対1で行います。就職支援課のほか、外部機関(ハローワーク、キャリアセンター)のスタッフに相談ができる出張相談もあります。
※事前予約制



Q. インターンシップに参加するには?

A. まずは就職支援課へ。

就職支援課ではインターンシップの開催情報を取りまとめ、掲示・配布しています。就活の第一歩として参加時に気をつけるべきマナーを学べる対策講座も開催しています。



就職支援課
について

Q. わからないことだらけ…

A. まずは就職支援課へ。

沖大のキャリアサポート!

沖縄大学就職支援課では、学生ひとりひとりにあわせた支援を行っています。

「なにから始めればよいの?」、「就職情報はどこで収集できる?」など多くの疑問や不安を抱えるものです。本格的に活動が始まる3年次からではなく、入学時から「どんな仕事に就きたいか」、「ワークライフバランス」など、自己分析を重ねて、就職について意識しておきましょう。

そして、まずは就職支援課に気軽に相談してください。充実した就職活動ができるよう、就職支援課は全力でサポートをします。(よくある質問について、いくつかご紹介します。)

Q. 就職にむけていつ何をすればいいの?

A. 就職イベントを要チェック!

3年次向けから1・2年次向けまで、就活の基礎や選考対策が学べる各種セミナー、企業と接点を持つ企業説明会などを開催しています。※イベントは一部のみ記載しています。

3月 合同企業説明会

10月 就活スタートセミナー

4月 就活スタートガイダンス

11月 内定者との交流会

5月 就活スタートセミナー入門編

12月 社会人との交流会

6月 インターンシップ&仕事体験

1月 筆記試験対策セミナー

9月 就活初心者向けセミナー

2月 本番直前!総まとめ講座

Q. 沖大の就職率ってどうなの?

**A. 2022年度卒業生の
就職率は**

97.7%!

コロナ禍では採用活動を停止した企業もありましたが、そんな状況下でも就職率は上昇しています。Web説明会やWeb面接などの機会が増えたことで、時間やコストが抑えられ、特に県外企業を志望する学生にとっては就活しやすい環境になったと考えられます。



福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻
[具志川商業高校出身]
内定先:沖縄県労働金庫
石川 凌大さん

たくさんの人を頼って
就職活動を有利に!

スポーツに興味があり大学では健康スポーツ福祉専攻で学びましたが、就職するなら金融系と早い時期から決めていました。金融系企業にインターンシップに行き、働く方々の雰囲気や人柄を見極めて、最初に内定をいただいた沖縄県労働金庫にしました。早めに企業分析を行い3年次の2月に活動をはじめて3月にはエントリーシートを提出、自己分析がとても重要で自分の長所や短所を理解し面接に活かしました。就職支援課でも面接練習をしてもらいましたが、沖縄市にあるJOBカフェを利用したりもしました。いろいろな人を頼って就職活動を進めていった結果、内定をいただけたと思います。元気で笑顔を意識して面接には取り組みました。“元気ある人と働きたい。”とみなさん思いますよね。だから元気&笑顔は大切だと思います。

大学時代は、沖縄戦の継承の取り組みについて興味関心があり、それらを伝えることができる企業に就職できればと考えていました。なのでメディア関連の企業に入りたいと考え、県外15社、県内1社、テレビ局に絞って就職活動は行いました。インターンシップは3年次の夏休みに行き、本格的にエントリーをしたのは昨年の3月1日からです。就職活動で大事なことは、他のひととは違った武器を持つこと。面接では企業理念を理解し、それに自分がどう貢献できる人間なのかをアピールすることが大切です。

他人と違う自分の活動力
PRできる武器を持つ!

国際コミュニケーション学科
[那覇商業高校出身]
内定先:琉球朝日放送

本村 杏珠さん



「総代」



経法商学部 経法商学科
[小禄高校出身]
ふなこし まき
富名腰 真希



人文学部 国際コミュニケーション学科
[琉球大学短期大学出身]
うえち ひろあき
上地 浩昭



人文学部 福祉文化学科
社会福祉専攻
[南部商業高校出身]
きしもと ゆうり
岸本 優莉



人文学部 福祉文化学科
健康スポーツ福祉専攻
[那覇商業高校出身]
みやざと
宮里 あいり



人文学部 こども文化学科
[那覇西高校出身]
みやぎ なつき
宮城 奈月



健康栄養学部
管理栄養学科
[那覇国際高校出身]
たまな さずか
玉那覇 紗香



大学院 現代沖縄研究科
[読谷高校出身]
あらた かずま
新田 和馬

2023年度 沖縄大学卒業式・大学院修了式

3月8日、2023年度 沖縄大学卒業式、大学院修了式を挙行し、大学卒業生 497名、大学院修了生1名、合計 498名が新たな門出を迎えました。

過去4年間は新型コロナウイルス感染症の影響を配慮して保護者は式典会場への入場を制限していましたが、5年ぶりに保護者も参加頂いての開催となりました。コロナ禍で入学式の開催もなく大学生活をスタートさせた卒業生たちに向け、学長告辞では、「これからも厳しく変化する時代に立ち向かい、地域社会における問題を主体的に発見し解決策を編み出し、地域社会の未来に貢献していく人間になってほしい」とはなむけの言葉が贈られました。式典終了後、各学科に分かれて卒業証書が授与され、卒業生たちは仲間とそしてこれまでお世話になった先生たちと最後の時間を過ごし、笑顔で記念撮影等を行っていました。



2023年度 卒業生・修了生特別表彰者

健康栄養学部長賞



玉那覇 紗香 [管理栄養学科]

玉那覇紗香さんは、社会人特別推薦選抜で入学し、累計 GPA3.91 と素晴らしい学業成績をおさめました。また、在学中にはクロスフィット指導者の資格を取得し、さまざまな大会で優れた成績をおさめました。卒業研究では「栄養管理が運動パフォーマンスに及ぼす影響」についてまとめ、トレーニングする方々へ食事の重要性をアドバイスするなど活動を行いました。

研究科長賞



新田 和馬 [現代沖繩研究科]

新田和馬さんは、学部時代から琉球史の研究を熱心に行い、修士論文ではほとんど解明されてこなかった泊村の歴史について、少ない史料から事例を丹念に拾い集め、新しい歴史像を提示することに成功しました。本学初となる沖縄県教育庁文化財歴史編集班での専門職員に就職が決まり、沖縄の歴史研究を担う次世代の若手研究者として期待されています。

嘉数昇記念賞



伊計 政太佳 [経法商学科]

伊計政太佳さんは、2019年から沖縄本島で活躍する社会人のカラーガードチーム「croix (クロウ)」のメンバーとして活動し、2022年9月にアメリカの「Onyx」というカラーガードチームのオーディションに合格、全米大会の正式メンバーに選ばれました。2023年の全米大会では見事、全米第6位の成績を取めました。また、学業の面では、人種差別問題の研究にも取り組み、グローバルな社会問題への解決に向けた独自の活動を展開しました。

仲村 俊輝 [福祉文化学科]

仲村俊輝さんは、本学水球チームのキャプテンとしてチームの創設部2年目からキーマンとして活躍、第98回日本学生選手権水球競技大会九州予選会での優勝や2年連続の日本学生選手権大会（インカレ）出場権獲得など、強力なプレーとリーダーシップでチームを牽引してきました。

人文学部長賞



本原 廉 [こども文化学科]

本原廉さんは、理想の教師像を追求し、優秀な成績をおさめ、特に沖縄県教員採用試験一次試験では県内1位の成績で、見事現役合格を果たすことができました。

嘉数昇記念賞



沖縄大学管理栄養学科子ども食堂サポートチーム

糸数 萌香、島袋 涼佳、津波古 美桜、仲里 優花、西平 瑠花、山城 妃那、吉田 桜佳

子ども食堂サポートチームは、2020年から毎年、チャレンジ沖大生の企画に参加し、こども食堂や関係機関と協力してひとり親世帯へ手作り弁当無料配布やこども向け食の自立支援動画制作等の活動を行ってきました。チームメンバーの「地域のために、食を通して何か役に立ちたい」という強い思いから始まったこの活動は、昨年の農林水産省主催「第7回食育活動表彰」で審査委員特別賞を受賞しました。

城間 祥希 [国際コミュニケーション学科]

城間祥希さんは、教職課程を履修し、中学・高校の英語教員一種免許を取得しました。課外活動では4年間男子バスケットボール部に所属し、3・4年次にはキャプテンとしてチームをまとめました。また、バスケットボールの審判免許を取得し、県内中学・高校のバスケットボール大会の審判を務めるなど、大学内外で活動しました。

交野 匠 [福祉文化学科]

交野匠さんは、公務員試験対策や社会福祉士の国家試験対策に真摯に取り組みました。その結果、学校公務員試験と市役所の公務員試験の両方に合格することができ、浦添市役所への就職が決まりました。交野さんは福祉文化学科で学んだ専門知識や専門技術を活かし、将来、市役所での活躍が大いに期待されます。

学長特別賞



本村 杏珠 [国際コミュニケーション学科]

本村杏珠さんは浦添市観光親善大使、NHK 復帰検定番組モデル、県主催「平和うむい」沖縄チーム学生代表、県主催シンポジウムのファシリテーターなど、多岐にわたる活動を展開しています。さらに、慰安婦問題についての未来への継承をテーマに卒業論文を書き上げました。

経法商学部長賞



川村 真太郎 [経法商学科]

川村真太郎さんは、学業において優秀な成績を取り、ゼミナール大会では、ゼミ生共同で「学生が考える住みよい街ランキング in2022」をテーマに研究成果を発表しました。また、空手道部に所属し、副キャプテンとしてメンバーを牽引し、個人形や団体形で優勝するなど活躍しました。

玉城 仁衣奈 [経法商学科]

玉城仁衣奈さんは、沖縄県警察「大学生少年サポーター」として不登校の中学生への学修支援担当や障がいを持つ子どもたちの児童デイサービスでの指導員、剛柔流空手の代表として県民体育大会への出場などの多彩な活動が評価され、昨年9月には沖縄県中小企業家同友会の第4回「碧の会ネクストリーダー賞」優秀賞を受賞しました。

News & Topics

2023
12/23 ともたちと楽しく学び合い！
2023年度子ども文化学科
「学校ごっこ」開催

子ども文化学科1年次恒例イベント『学校ごっこ』をアネックス共創館で開催しました。

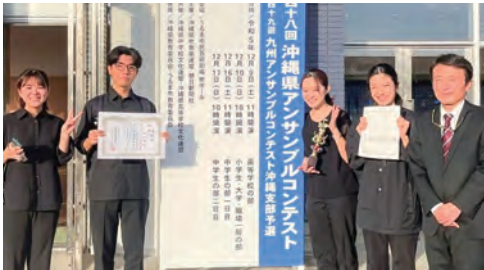
『学校ごっこ』は、授業づくり等を通して実践的な指導力を身に着ける取り組みで、大学1年生が教師役を務め、小学校の1日をまねて模擬授業を行い、大学近隣のともたちと交流するイベントです。午前中は11人の児童が参加し、朝の会や国語の授業、道徳の授業を行いました。参加した児童たちは、クイズ形式の授業に積極的に参加してくれました。また学生たちは、教師役だけでなく全員で授業を成功させようという気持ちで、貴重な学び合いの時間を楽しんでいる様子でした。

運営を担当した酒匂香音さんのコメント

今回二年宮島ゼミは、運営側として学校ごっこに関わりました。運営の仕事は沢山あり、スケジュール制作、学童への協力願ひ、担当ゼミの指導案制作の手助け、本番前日には会場の飾り付けなど一年生の時には分からなかった二年生の役割を今年は身をもって知ることができました。これらをごこなしていく中で大変だなと感じることも多かったのですが、それ以上の達成感や一年生の成長を身近で感じる事ができたことは、二年生にとって、とても大きな成長につながったと思います。学校ごっこは実際に子どもたちに関わることができる数少ない行事なので教員を目指す私たちにとっては改めて大切なイベントだなと感じました。

2023
12/10 沖縄県アンサンブルコンテストで
本学吹奏楽部が金賞受賞！

第48回沖縄県アンサンブルコンテストがうるま市(うるま市民劇場)で開催され、本学吹奏楽部が「管楽四重奏」部門で金賞を受賞しました。3年連続の金賞受賞となります。メンバーの4人は、高校時代、同じコザ高校吹奏楽部に所属していて、一昨年から4人で活動しています。12月18日には受賞の報告のため学長表敬を行い、「コンテスト出演だけではなく、今後は、地域のイベントやボランティア訪問演奏に参加したい」と活動の場を広げていきたいと抱負を語ってくれました。

2023
12/16 男子バスケットボール部優勝！
県大学バスケ2連覇！

第31回県大学バスケットボール選手権大会が中城体育館で開催され、本学男子バスケットボール部は見事、優勝を決めました。2大会連続の優勝になります。新チームで臨んだ今大会は、持ち前のディフェンス力とスリーポイントシュートが多く決まり、全試合において優位なゲーム運びをすることができ、来年度の全九州大学リーグでの一部昇格に向け、弾みをつけました。

試合結果	2回戦 沖大 - 沖国大 (102-66)
	決勝戦 沖大 - 琉大 (82-60)



ミニ企画 琉球の歴史を感じて！

首里城に棲む龍たち

沖縄大学大学院沖縄現代研究科 兼城 夏芽



2024年の干支は辰。辰といえば龍ということで、今回は首里城内に棲んでいる龍を紹介いたします。首里城には、正殿の屋根に設置された龍頭棟飾をはじめ、正殿を支える柱や梁など、33体もの龍の装飾が施されています。首里城の龍たちは、唐破風屋根の龍頭棟飾を除き、阿形(口を開いた形)と吡形(口を閉じた形)がペアになっているのが特徴です。さらに、「四爪龍」といって4本の爪を持つ龍が描かれています。なぜ琉球の龍は四爪龍なのでしょう。それは、琉球王国時代に中国と冊封・朝貢関係を結んでいたことに理由があります。古代中国より空想上の獣とされてきた龍は、中国皇帝の象徴として神聖視されており、5本の爪を持っていました。一方、朝貢国である琉球は中国にならって龍を国王の権力の象徴としますが、中国皇帝への配慮から、あえて一本少ない4本爪の龍を描いたのです。それは、中国と冊封・朝貢関係にあった朝鮮も同じでした。

首里城は現在、復元工事中のため正殿の龍を見ることはできませんが、城内のあちこちに龍は潜んでいます。目を凝らしてみると、歓会門や瑞泉門、広福門、奉神門、継世門といった正殿へつづく門に掲げられた扁額にも龍が棲んでいるのが分かります。また、瑞泉門の右手には、中国から訪れた冊封使の徐葆光が「中山第一」(琉球で一番)と称えた名水が湧いており、石彫りの龍頭から流れ出ていることから龍樋と呼ばれています。この龍頭は、1523年に中国からもたらされたもので首里城内にある彫刻物の中で唯一当時のものであるとされています。

今回は、首里城に棲む龍を中心に紹介しましたが、王国時代の遺物を見ると、建造物のみならず、国王が着用した衣裳や簪、漆器や陶器類などの日用品にも龍が燦爛と描かれているのが分かります。龍は王権の象徴としてあらゆることに用いられていたのです。皆さんも是非、首里城で龍を探してみてくださいはいかがでしょうか。



<参考文献>

- ・首里城研究グループ編『首里城入門—その建築と歴史—』ひるぎ社、1992年。
- ・『首里城公園ガイドブック』財団法人海洋博覧会記念公園管理財団首里城公園管理センター、2000年。
- ・首里城公園友の会編『首里城の復元～正殿復元の考え方・根拠を中心に～』財団法人海洋博覧会記念公園管理財団、2003年。
- ・首里あるき「龍樋」 <https://oki-park.jp/shurijo/shuri-aruki/siseki/2014/01/post-5.html> (2024年3月8日閲覧)

News & Topics

2024
2/26 子ども文化学科松尾ゼミ
台湾の小学生と交流

子ども文化学科松尾理沙先生のゼミ（3・4年次）学生たちが、台湾嘉義市民族国民小学校を訪問し、英語の講義の見学や授業参加、交流を行いました。また授業参加後は、嘉義市教育関係者や陳校長、英語の教務主任、英語担当教員等と学生たちで、英語での意見交換をさせていただきました。

2024
2/15 交換留学生とベトナムの旧正月
(テト)を体験！

今回のイベントは交換留学生のヴィーさんとトゥーさん、国際コミュニケーション学科の天野裕子先生、ベトナム語入門を担当しているグエン・ドアン・ニェン先生が企画して、教室を飾りつけ、旧正月料理の説明や食べ方についてのレクチャー、ベトナムのゲーム等を行いました。約12時間ほど蒸して完成する旧正月には欠かせない料理バインチュン（Bánh chưng）というチマキ等、参加した学生たちは初めて食べる料理に興味深々の様子で、揚げ春巻きなど自分の好みの具材を巻いて楽しく過ごしていました。

2024
2/25~3/2 ベトナム・スタディーツアー『Phenikaa 大学学生と日越の歴史文化を学ぶ』

沖縄大学では、集中講義として異文化交流を目的とする海外研修ツアーを開講しています。今回は、国際コミュニケーション学科の学生5名と経法商学科の学生1名が参加し、ハノイ市にある Phenikaa 大学日本語学部2年生の学生たちとベトナムや日本、沖縄について学び合いました。期間中は Phenikaa 大学の学生とパートナーとなり、文廟、ホアロー収容所、ヴァンフック村、ホアンキエム湖、障がい児支援センター等を訪問し、ベトナムの歴史や現状、文化習慣等を学びました。また、パートナーと数日間に渡って行動を共にしたことで、ベトナムの学生たちの日常や考え方なども学ぶ貴重な体験となったようです。

2024
1/20 学びを発表！健スポ アカデミックデイ！（福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻）

福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻では、卒論発表会と研究発表会を同日に開催、「アカデミックデイ」と名付け、学生たちはこの一年の研究の成果を発表しました。

午前は4年次の卒論発表会を行い、体育授業における言葉の持つ影響力についてまとめた卒論や自身が不登校を経験したことから効果的な支援の在り方について検討した卒論、女子野球の普及に向けた研究など、学生たちが関心を持った身近なテーマについて調査を実施、データをもとに論じ、今後も課題解決に向けて継続して取り組みたいとまとめている学生もいました。午後には、2年次の研究発表会を開催。教室の壁に70人分の発表内容を張り出して、1分間の持ち時間でこの一年、取り組んだ研究について発表しました。「音楽と運動能力の関係」や「サッカーの得点が起きる状況について」、「入浴後は運動パフォーマンスが良くなるのか」、「部活と恋愛」など、興味関心があるテーマについて、ユニークな発想を織り交ぜながら楽しい雰囲気の中での発表会となりました。

2024
2/10 「2023年度修士論文最終発表会」
大学院現代沖縄研究科

修士論文最終発表会には2023年度の修了生の新田和馬さんが、「琉球王国における泊村の歴史的役割について—泊土の実態を中心に—」と題して、およそ250頁にわたる修士論文の内容について報告しました。

会場では、泊村の歴史的様相や泊土の生き様に関する質疑応答が行われたほか、泊村にルーツを持つ参加者が、先祖について熱心に尋ねるやり取りも見られました。

2024
2/6 100人で清掃活動！
体育会所属学生と指導者が国場
地区を大清掃！

例年体育会では春季休暇中に、日頃、部活動への応援や遠征費補助等でサポートを受けていることに感謝をして学内清掃を行っています。これまで授業の一部で国場地区自治会等との連携活動は行ってきましたが、コロナ禍を経て、より地域との連携を築いていければと、今回は国場地区自治会との連携活動として、5班に分かれて大規模な地域清掃活動を行いました。

第2回

わたしの先生、 紹介します！

昨年8月の広報誌で企画化した沖縄大学の学生が先生を紹介する企画を定期的に連載することになりました。「研究のひろば」と「わがゼミナール」に代わる企画としてご愛読いただけると幸いです。

今回は国際コミュニケーション学科洪琬伸先生のゼミ生2人が先生について紹介してくれました！

洪ゼミでの活動

ゼミでは、様々な分野について学んでいます。また、フィールドワークを通して学ぶ機会を多く得ています。7月には韓国語弁論大会に出場したり、9月には宮古島合宿を行ったりなど、他では学ぶことのできないことに取り組んでいます。3年次のゼミでは興味のある新聞記事に対してどう思うのかを考え自分の言葉でまとめていく作業や、琉球弧研究プロジェクトへの参加など、自分たちが何に関心があるのか追求し、学びを深めています。

ゼミの学生たちと洪先生（写真右下）



ゼミを通して感じた洪先生の魅力

洪先生は、大学で遅くまで作業して常に努力を怠らない所や先生の研究室に行くと、私たちに毎回お菓子や飲み物を用意してくれていて、手ぶらでは帰さない所など、私たちの事を考えてくれていることがとても伝わります。また、フィールドワーク時に渡される配布資料の多さには驚くことがありますが、そのくらい私たちに伝えたいことが多くあるという指導への熱意も感じます。

ゼミ生だけでなく、他の学生や同僚の先生たちにも丁寧に接する姿には尊敬します。

ホンユンシン

洪琬伸先生の紹介

洪先生にお話を聞いてみました！

(国際コミュニケーション4年次 新垣美琉・吉田文美)

1. 洪先生の大学時代

洪先生は、大学では、国際関係学（沖縄大学の国際コミュニケーション学科のように幅広いものを教える学問）を専門としながら、副専攻で日本語を学んでいきました。

また、大学時代は学生新聞記者活動もしていて、初の女性編集長にもなったそうです。そのため、4年間週末の休みがない上に、締め切り前には徹夜をする日々を過ごしていたそうです。

2. 日本に来た理由

大学の3年の時に、ふとしたことをきっかけに日本への留学を考えるようになったそう

です。大学時代は、新聞記者になるものだとばかり考えていたようですが、留学して視野を広げてから新聞記者をやっても遅くないのではないかと思い留学に踏み出すことに…。

4年生の後期に復学して卒業した後は、再び日本に戻り修士課程に進みました。修士論文を書いているときに、ひとつのテーマを深く考えることの楽しさに気づき、博士課程を志望して、沖縄と韓国との関係を軸に研究することになり以降、20年以上日本で研究することになります。

3. 専攻分野を研究しようと思ったきっかけ

大学時代に、韓国を訪問していた沖縄の

方々に会う機会があったそうです。沖縄の基地問題を韓国に伝えたいと思い活動している方達で、大学生の先生はまだ日本語がそこまで上手くなく、正確には理解できなかったようですが、一生懸命に話す沖縄の方々の話は胸に響いたそうです。沖縄のことも学びたかったけれど、まだ90年代の韓国で沖縄について教えている学科や大学院はありませんでした。それで、早稲田大学に留学して基地問題を中心に沖縄と韓国の違いは何かについて研究していきます。さらに、朝鮮半島から沖縄戦に強制動員された韓国人（「慰安婦」を含む）を沖縄の人々はどのように記憶しているのか、その記憶の重要性について探求してきました。今後はもっと遡って、琉球や朝鮮王朝の関

わりまで視野を広げたいと考えているそうです。

4. 研究への想い

韓国と沖縄は国際情勢の緊張を理由に、軍事増強などの政治的背景や差別、偏見を経験した歴史背景等、類似点が多くあります。また、アメリカとの関係においても米軍基地が集中している点で共通しています。こうした共通点がどこから生じたのか、またその過去とともに未来を考えるためにはどのような思想が必要なのか。洪先生は、それらを紐解いていく人材の必要性など、沖縄大学の皆さんと共に考えていきたいと話してくれました。

裁判員等経験者との意見交換会に参加して

■ 経法商学科・富山ゼミ



01 | 趣旨説明 [経法商学科講師] 富山 侑美

裁判員裁判は、2009年の裁判員法の施行によって導入されました。刑事裁判に一般市民が裁判員として参加することによって国民の意見を取り入れ、開かれた司法を実現しようとしています。具体的には、裁判員は裁判官と共に証拠を審査し、法廷での証言を聞き、被告人の有罪又は無罪を判断します。有罪の場合には、刑の重さも決めます。

裁判員は、選挙人名簿等を基に作成された裁判員候補者リストから無作為に選ばれた人から、裁判員としての職務を果たす能力があるか、学業や仕事など避けられない予定がないかなどを考慮して選ばれます。これまで、成人年齢が20歳だったため、リストには20歳以上70歳未満の人が載っていましたが、2022年に成人年齢が18歳以上となったことに伴い、18歳、19歳の高校3年生や大学1、2年生も選ばれる可能性が出てきました。そのような若い人た

にとっては、「裁判員って、なんだか難しそう…」「裁判に自分の意見なんて言えるのかな…」といった心配があることから、若年層の参加がなかなか進まない状況です。

そこで、広く国民が安心して裁判員裁判に参加できるよう、裁判員や裁判員補充員に率直に意見を聞き、多くの人に伝え、今後の裁判員裁判に生かすことを目的として、全国的に意見交換の場が設けられてきました。那覇地裁では、令和6年3月7日（木）に、令和3年7月以降に裁判員等として裁判に参加した7名の方が集まって、裁判官・検察官・弁護士とともに意見を交換し合う、「第13回裁判員等経験者の意見交換会」が行われ、経法商学科・富山ゼミ（基礎演習Ⅱ・専門演習b）の有志4名が、学生記者として、裁判員等経験者の方々にインタビューをしてきました！その感想の声が届いたので、ご紹介します。（学年は、参加時点のもの）

02 | 経験者の声／学生記者として

▶ [経法商学科2年] 町原 和樹さん

裁判員経験者の意見交換会に学生記者として参加し、とても貴重な話を聞くことができました。裁判員に選任されたときは「やってみようかな」「宝くじよりも貴重」と簡単な理由で参加したのに、審理や評議を通して、被告人の人生を変える判決に関することに対する責任を感じたと言っていた人がいたことから、大変さが伝わりました。また、ノートと鉛筆だけで記録した内容で評議するため、聞く力、話す力が必要で、法律のことだけでなく、人それぞれの価値観の違いを学ぶことができる体験だと知りました。一人一人が意見を出し合って判決を出すため、若者でも、法律を学んでいなくても、裁判員となることに心配することはないそうです。もし、自分が裁判員に選任されたときは、逃げずに挑戦しようと思いました。

▶ [経法商学科2年] 比嘉 悠乃さん

意見交換会では「有意義だった」「機会があれば参加すべき」「貴重な経験」といったような意見が多く見られました。しかし他方で、「この経験をどのように日常生活に落とし込んでいいかわからない」「自ら進んで裁判員としての経験を人に話そうとは思わない」という意見もあり、裁判員として得たものを社会に還元するところまでは難しいのだと感じました。また、守秘義務を徹底するあまり裁判員の体験を周囲に話すことについて萎縮してしまっているのではないかと感じました。

全体的には、裁判員制度は経験者個人に影響を与えることはできても、経験者個人を通じたそれより先の社会に効果的な影響を与えられていないのではないかと印象です。

裁判員制度にはまだまだ課題もありますが「判決は適正な手続のもと下されていることを知った」「地域によって判決に違いが出ないように平等が確保されていることを実感した」といった意見も出ていたので、国民の司法への信頼を築くために役立っているのだと理解出来ました。

▶ [経法商学科3年] 伊敷 裕さん

今回の意見交換会に参加して私が学んだことは、裁判員裁判には法律的な知識をあまり必要とせず、私たちのような年齢が若く経験が少ない人でもそこまで気負いせずに参加することができるということです。

参加していた方々は「裁判員裁判に参加してよかった」、「とても良い経験になった」とおっしゃっていました。これまで私は、裁判員制度は文字通り裁判員になるということで、事前勉強がすごく大変で、これまでの経験や社会常識などを理解した上で成り立つものだと考えていました。しかし、私と歳があまり変わらない方もいらっしゃったり、あまり経験や知識を必要としなかったり、評議中にわからないことがあっても、裁判官の方がとても丁寧に教えて下さっていたことから、自分のレベルに合わせて教えてくれると知ることができ、私がこれまで思っていた裁判員制度の、難しそうだなという価値観が覆され、是非私も機会があったら参加してみたいと思いました。

▶ [経法商学科3年] 譜久里 朱莉さん

意見交換会に参加し、裁判員を経験した7人の方々が「やって良かった」「もう一度裁判員裁判に参加したい」と肯定的な意見だったことがとても印象的でした。皆さん最初は不安でも、裁判官の方が些細な疑問にも答えてくれ、時には雑談で場を和ませるなど参加しやすい工夫がされているのだと知りました。裁判員裁判が18歳以上から参加可能になり、これから裁判員を経験するかもしれない若年層へのメッセージとして「お金を払っても経験出来ない、人生に残るもの」「社会との繋がりをを感じることに出来る貴重な経験」と仰っていました。以前から私は裁判員裁判に参加したいと思っていましたが、今回、意見交換会で裁判員経験者の方々のお話を聞いて、裁判員裁判へ参加する意義をより一層感じました。

OKIDAIのわプロジェクトにご協力ください！

沖繩大学への寄附について

寄附をご希望のかた

☆インターネットからの申込み・金融機関での振込によるご寄附

本学ホームページ (<http://www.okinawa-u.ac.jp/>) をご参照ください。

ホームページ内の寄附申込みサイトからお申し込みください。クレジットカード決済・コンビニ決済・Pay-easy 決済で、ご寄附頂けます。(株式会社エフレジの F-REGI 寄附支払いサイトでのお手続きとなります。)

口座名義：学校法人沖繩大学 下記載の金融機関より振込みをお願いいたします。

- 琉球銀行寄宮支店 口座番号：894546
- コザ信用金庫那覇支店(店番 017) 口座番号：2001340
- 沖繩銀行識名支店 口座番号：1530452
- 沖繩県労働金庫本店(店番号 952) 口座番号：3437519
- 沖繩海邦銀行寄宮支店 口座番号：0655244
- ゆうちょ銀行(店番 708) 口座番号：1757550

問い合わせ先 メール：keiei@okinawa-u.ac.jp FAX：098-832-0083
〒902-8521 沖繩県那覇市宇国場 555 番地 沖繩大学経営企画室 宛

寄附活動新たな取り組み

5,000 円以上ご寄附をいただいた方に寄附返礼品を用意しました。
5つのギフトからおひとつをお選びください。

- ① 謝花きつぱん店「冬瓜漬」
- ② 真栄田そば「青い塩」
- ③ OKIDAI HONEY
- ④ 「赤瓦焙煎珈琲」
- ⑤ 「てーげースパイイス」



2023年度寄附金報告

2023年4月1日から2024年3月1日までの間にいただいたご寄附についてご報告いたします。このご厚意を大切に、有効に使わせていただきます。ご寄附をいただいた皆様に熱く御礼申し上げます。
総額 24,240,400 円 (総額については、匿名希望者のご寄附も含めた金額です) (金額順・五十音順)

2023年度冠奨学金

(2023年度 20名に授与済み、寄附総額 7,000,000 円)

株式会社沖繩銀行 様	1,750,000 円	沖繩電力株式会社 様	700,000 円	公益財団法人金秀青少年育成財団 様	350,000 円
株式会社琉球銀行 様	1,750,000 円	沖繩ビル管理株式会社 様	350,000 円	福山グループ 様	350,000 円
株式会社沖繩海邦銀行 様	1,050,000 円	株式会社 OCS 様	350,000 円	株式会社琉信ハウジング 様	350,000 円

【法人・個人】

木村英紀 様	2,000,000 円	仲地博 様	20,000 円	大石直樹 様	5,000 円
新崎恵子 様	1,000,000 円	仲村芳信 様	20,000 円	大角靖子 様	5,000 円
仲村渠哲勝 様	610,000 円	奥間昌明 様	10,000 円	大森潤之介 様	5,000 円
與那原亜由美 様	360,000 円	亀川美乃 様	10,000 円	川北早織 様	5,000 円
株式会社南西環境研究所		神田智博 様	10,000 円	島袋格 様	5,000 円
代表取締役田中弘美 様	275,000 円	幸地正博 様	10,000 円	謝名孝雄 様	5,000 円
小島宏 様	50,000 円	崎浜盛喜 様	10,000 円	城間三郎 様	5,000 円
有限会社琉冷サービス 様	50,000 円	玉城智雄 様	10,000 円	谷直樹 様	5,000 円
沖繩テクノクリート株式会社 様	30,000 円	玉城舞瑠子 様	10,000 円	東太田和子 様	5,000 円
整形外科てるクリニック 様	30,000 円	長嶺千枝 様	10,000 円	備瀬知晶 様	5,000 円
南洋土建株式会社 様	30,000 円	西島孝光 様	10,000 円	屋富祖繁幸 様	5,000 円
北部製糖株式会社 様	30,000 円	毛利孝雄 様	10,000 円		
琉球海運株式会社 様	30,000 円	山田昭文 様	10,000 円		
上田不二夫 様	20,000 円	栗国彰 様	5,000 円		
許田英子 様	20,000 円	飯田明美 様	5,000 円		
		石川丈正 様	5,000 円		

【大学関係】

後援会からマイクロバスをご寄贈いただきました！

2023年12月21日に沖繩大学後援会からマイクロバスをご寄贈いただき、贈呈式が行われました。式では、後援会を代表して新垣淑典会長から「学生の正課外活動やフィールドワーク等の移動に活用いただきたい」との挨拶と山代寛学長にマイクロバスのカギのレプリカが手渡されました。



末吉ゼミが紹介する 沖大近くのおススメなお店！

【21時にアイス】

(那覇市寄宮153-1・大学から徒歩5分)
16時半オープン夜の夜からアイスのお店。常時22種類のパフェと季節限定メニューが頂けます。モンブランパフェは厳選された栗や紫芋を素材に、お店でクリームから手作りされているそうです。講義や部活のあとのご褒美に是非立ち寄ってみてください。



大城汐莉さん 知念れいみさん

【コトリ焼き菓子店】

(那覇市樋川1-28-16・大学から徒歩15分)
栄養士の資格を持つオーナーが食材にこだわり、「家族に食べさせたい、優しいお菓子」をお客様の笑顔のために丁寧に作っています。お店は週に2回(木曜日と金曜日11時半～)オープンです。



【台湾の星】

(那覇市長田2-5-18・大学から徒歩2分)
ジーパイ(ジャンボチキン)と台湾ドリンクのお店は、台湾夜市の本格的な味が楽しめます。ジャンボチキンは食べ応え満点！ここでしか味わえない冬瓜茶は美容に良いと言われています。先月新発売のジーパイサンドイッチも人気です。

